

# 学外研修報告

共通機器部門 共通利用機器管理班

柿村 順一

## ブルカー・バイオスピン 第 34 回 NMR ユーザーズミーティング 参加報告

### 1. はじめに

核磁気共鳴装置（以後 NMR と略す）の基礎的および最新の分析技術の習得、並びに情報交換を行い教育・研究支援のための知識・技術を向上させることを目的として参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成 29 年 10 月 4 日

会場：ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター（大阪府大阪市）

### 3. 参加者等

大学、研究所、企業等にて NMR 分析および運營業務にかかわる技術者および研究者 約 150 名

### 4. 研修内容

聴講したワークショップ・講演の内容は以下の通りである。

ワークショップ～ デカップリングの理想と現実

そのパルスプログラムはなぜ動かないのか

講演～クライオプローブとマグネット情報、新世代分光計とソフトウェアについて、最先端固体 NMR 技術、ポリマー分

## 5. まとめと感想

測定に使用されるパルスプログラムは様々な種類のものがあるが、デカップリングパルスが組み込まれている物が多い。そのデカップリングパルスも様々な種類のものであり難解であったが、ワークショップにてデカップリング法と合わせてパルスプログラムの記述について基本的な事項から聴講でき、どのように測定が進んで行くのか理解を深める糸口をつかむことができ、非常に有意義であった。

講演では主に固体 NMR を活用した研究、最新技術を使った感度上昇について聴講した。業務で固体 NMR を扱う機会はないが、最新の動向を知ることができ、大変参考になった。今回のミーティングにて得られた知識を今後の技術支援業務に積極的に活用していきたい。